

# かさおか

発行所  
天理教笠岡大教会

かさおか編集掛  
笠岡市用之江377  
郵便番号714-0066  
(0865)  
電話 66-1311  
FAX 66-1314



きれいに刈り込まれたダルマツゲ  
(11月15日 大教会神苑で)

教祖130年祭に向かって

三年千日 さあ！ おたすけ  
祈る 動く つなぐ

立教177年  
12月号

## 海外伝道は

## 異文化への伝道

海外伝道講習会 開催

海外部

海外部(上原志郎部長)では11月21日、森洋明先生(名城大所属 夫理大 学附属おやさと研究所准教授)を講師に迎え、大教会11月月次祭後に「海外伝道講習会」を開催、役員・部内 教会長・布教所長・よふぼく・信者ら多数が受講した。

森先生は自信の海外布教を通して「教祖のひながたこそが、実は異文化伝道のひながたであり、教祖こそ異文化伝道の先駆者である」と話された。

要旨は次の通り。

## ◎コンゴブラザビル教会活動

コンゴ伝道は23歳の時から拘わつています。今年で丁度、30年になります。現在はコンゴブラザビル教会の顧問という立場を頂いて年に1〜2回コンゴに行く機会を与えられています。コンゴは何処

にあるのか、知らないかも分かりませんので案内します。(神殿内に設置されたプロジェクトで案内される)

コンゴ民主共和国、昔はザイルと言われていた国です。首都はブラザビルで、大きさは日本の90%位です。コンゴブラザビル教会は100m×100m位です。大通りに面し、おふでさきの一節を壁に掲げています。参拝場は椅子席です。昔は御簾がありました。がぼろぼろになつて、今はカーテンを掛けています。(月次祭の様子をプロジェクトで見ると)

ご覧頂いた様に、日本の月次祭と変わりなくつとめています。祭典の後に講話があるのですが、その合間にコーラス隊があります。コーラス隊というのは、コンゴでは1990年代に内戦があり、本部から人が行けない時期で、現地の人達が活動を続ける中で生まれてきたものです。(コーラスの様子をプロジェクトで見ると)

おつとめ衣を着て、本土のリズムで激しく歌い踊るのは、見慣れない人には違和感があると思いますが、これもコンゴの現地化した姿かなあと 생각합니다。大変賑やかな月次祭です。

日頃の教会活動はひのきしん、おたすけ、にをいがけということで、日本の教会と大きく変わることはありません。おさづけの取り次ぎには、近隣の家に行ったりします。私は1985年から3年半程、コンゴに住んでいました。その頃、よく教会の周辺を、にをいがけに歩かせて頂きました。すると、全然知らない人から「天理教、天理教」と呼ばれるんです。「いつものこれやつてくれ」と言われて、おさづけを取り次がせて頂きます。当時は知らない家でも入って話しも出来る、そんな雰囲気でした。近年は内戦の影響もあるので、なかなか入れません。それでも日本と比べると、おさづけを取り次がせて頂く機会というものは多いです。

## ◎本人にとって一番いいご守護

私が住んでいた頃の話です。ある日、教会の周辺を歩いていますと、30歳位のご夫婦が頭を抱える様に座って居られました。暑い昼下がりのことでした。お母さんが大きな頭の女の子を抱えて居られました。後で、水頭症という病気だということが分かったのですが、その時には

<実行目標>人のたすかりを願ひましょう



おたすけ・お願いカード 集計：50,765枚

平成26年10月21日～11月20日

累計：551,715枚



分かりませんでした。私自身、その子を見てびつくりしました。5〜6歳位です。大きな顔から汗を一杯垂らせて、目をつぶって、それは苦しそうでした。ご両親もどうしようもない様な、そんな状態でした。

「この子どもさんはどうしたのですか？」と聞くと、10年位前からこんな状態だと言われます。「病気が治るお祈りがある」と言って、おさづけを取り次がせて頂きました。

お願いする時、どんなお願いをしたらいいのか分からない。両親も本当に疲れた様子でした。そもそもこの病気が治るのか治らないのか、私も分かりません。たとえ治る病気であっても、このご両親が病院へ行って治療費が払える様な感じはありません。コンゴにこんな病気を治せる病院があるのか？—そんな事を色々頭の中で思い「この子にとつて、両親にとつて一番ふさわしいご守護をお願いします」とお願いして、おさづけを取り次がせて頂きました。明日また来ますと言って、帰りました。

翌日、その家に行きますと、大勢の人が集まっているんです。おかしいと思って聞くと「子どもが亡くなった」と言われたのです。

### ◎不理解的な現状

コンゴに赴任した時、前任者からいろんな忠告

を受けました。その一つが「もし車を運転して交通事故で人を跳ねてしまったら、直ぐにその場から立ち去る様に」というものでした。ひき逃げしろというのではないのですが、もしその場に行たら、場合によっては民衆の怒りが巻き起こって、袋叩きにされるかもしれないのです。

実際、一昨年の事ですが、日本の布教師が郊外を歩いていた時、目の前で大型トラックがコンゴの人を跳ねてしまったんです。トラックはそのまま逃げてしまったのです。跳ねられた人は頭を打って意識不明の重体でした。騒ぎを聞いて近所の人達が大量集まって来て、その中の一人が跳ねたトラックに中国語の文字が書いてあった、と言うんです。そしてその人が、日本の布教師を指して「あそこに中国人がおるぞ」と言ったんです。

群衆の怒りが日本の布教師に向けられ、今にも襲われそうな雰囲気になってしまったのです。幸いにも、コンゴの信者さんが同行されていたので「彼らは中国人じゃあない。日本人だ。天理教の布教師なんだ」と必死に説明をしたので、こと無きを得たのです。もし説明が無かつたらどうなっていたかと思うと、少し恐ろしい気もします。

さらにコンゴでは、病気の原因が分からなかったり、人が突然亡くなったりすると呪術、占いをもってその原因を探ろうとします。そういう祈祷師がいるのです。その結果、多くの場合「誰々が

呪いをかけているのではないか？」となるのです。先程、話しましたが、おさづけを取り次いだ子が亡くなったと聞いて、どうなるのかなと恐れ、分からない様にその場から離れて行きました。しばらくはその界限には近寄らない様にしていました。

ところが数日経って、ご両親と道端でばったりと出合う事になってしまったのです。逃げようかなと思つたのですが、近づいて挨拶をしました。するとご両親から「お陰様で(おさづけの後で)眠る様に息を引き取りました。ありがとうございます」と言われたので安堵しました。

またご承知の様に、アフリカではエイズの患者が多いです。これはエイズじゃあないかという病人におさづけを取り次がせて頂く事もしばしばあります。大抵は痩せて、ただ横になっているだけという状態です。病名を聞いても、エイズだとは決して言いません。家族、親族の恥という事もあると思います。隠す人が多いです。隠すから治療が遅れる。治療が遅れるから、亡くなる可能性も高くなるという悪循環です。現在、西アフリカの方でエボラ出血熱が大流行していますが、その背景にもそういう事があると思います。

こうした人達におさづけを取り次がせて頂く時、どういう風にお願ひさせてもらったらいいのかよく悩みました。そんな時、私が居た出張所の

所長先生はこの様に言われました。「今生でたとえ治らなくても魂は生まれ変わるのだから、その魂にしっかりとおさづけを取り次がせて頂いて、来生にはすばらしい身上をお借り出来る様にお願ひさせてもらいなさい。だから一回でも多くおさづけを取り次がせてもらいなさい」と。私自身が本当に救われた思いがしました。

### ◎澄んだ心、もたれる心にご守護がある

お産に対するおたすけも多いです。おちばから遠く離れているので、残念ながら「をびや許し」を日本の様に簡単に頂く事は出来ません。しかも日本に比べると医療が遅れ、新生児の死亡率も高いです。その中でも、様々なたすかりをお見せ頂いています。

たとえば逆子で、このままでは手術しなければいけないと言われながら安産をした人。また陣痛がくる中を神殿で十二下りのをどりをし、その足で病院へ行き、着くと同時に出産という様な、病院や近所の人達が驚く様なご守護を頂かれた人。出産の際に、必ずハッピーを着けるのだという心定めで安産をした人——など。今の日本で、ハッピーを着てお産をするというのは不可能だと思います。

おちばから遠く離れています。が、神様を添う気持ちというのには本当に真つ直ぐで、その心がすご

く澄んでいるからこそ、この様なご守護が頂けるのだと思います。

私が一番驚いたおさづけは、四代会長(コンゴ)の事でした(現在は五代会長)。

ある日、3歳位の子どもが硬貨を飲み込んだといつて、お父さんが教職舎に連れて来られました。その子は「ウェツ！」と言つて苦しんでいます。ひっくり返して背中を叩いても様子が変わりません。車があつたので、病院に連れて行くこととしていたところに会長さんが来られた。「まずおさづけをさせてもらおう」と言つておさづけを取り次がれる。その時に限つてゆっくりなのです。子どもが苦しんでいるので、本当にハラハラして見ていたのです。取り次ぎが終わつて、急いで病院へ連れて行くことしたら、会長さんはおさづけを取り次いだんだから、神様のご守護が現われてくるまで少し待とうやないか」と、こう言われるのです。会長さんがそう言われるのだから仕方なく待ちました。その時の1分は本当に長く思いました。子どもはずつと苦しんでいます。その時です。ひっくり返して背中を叩いたら、飲み込んだ硬貨が出て来たのです。会長さんは「ほれ見ろ」と言われ、その顔は忘れられません。神様にもたれるという事は、どれだけ勇気のある事かと実感させてもらいました。

### ◎不思議な夢

一昨年の事、17歳の女の子がそれまで元気になっていたのに急にやせ細つて歩けなくなつてしまつたのです。医者に診せても原因が分かりません。そこで親族が集まつて呪術師を呼んで診てもらつた結果、「娘さんの病気はお父さんのせいである」という事になったんです。家族は娘がこうなつたのはあんたのせいだから、娘を最後まで面倒みなさいという事になりました。

それからお父さんと娘さんの二人の生活が始まりました。コンゴでは職業に就ける人が少ないのです。お父さんも高齢であり例外ではありません。食べる物も無く、このままでは飢え死にしてしまふのではないかという事もあつた様です。しかし娘さんは身体は動かないけれど頭はしっかりと生きていました。

ある日、娘さんがお父さんに「昨日、夢を見た。夢の中で赤い服を着た御婆さんが『天理教という教会へ行って、祈つてもらいなさい』』と言つたそうです。

お父さんは天理教の教会を探しました。勿論、お父さんも娘さんも天理教の存在という事を一切知りません。いろんな所で聞いて布教所に辿り着いたのです。その話を聞いた布教所長は、すぐに娘さんの所に行つておさづけを取り次ぎ、その後毎日通い続けました。すると娘さんが少しずつ

起き上がれる様になり、お父さんの肩を借りながら少しですが歩ける様になりました。これはもう奇跡的な出来事でした。やがて二人揃って布教所に参拝される様になりました。

丁度、一昨年、私が布教所に行った時、二人が居られました。娘さんは相変わらずやせ細って、立っているだけでも辛い様な感じでした。私は娘さんにおさづけを取り次がせて頂きました。しかしそれから数ヶ月して娘さんの容態が急変して、出直されたと聞きました。娘さんにとっては非常に短い一生だったと思います。しかし最後に夢に現われた御婆さんに導かれて、天理教に導かれて尊いおさづけの理を取り次いで頂くという機会を得た事で、きっと来生はより陽気ぐらしに近づく人生を歩まれるのではないかと思います。

### ◎布教所・講社の様子

布教所・講社は二つあります(プロジェクターで見る)。これは同じブラザビル市内にあります。紫色の飾り付け(教旗の色)がしてあります。先程言いました亡くなった娘さんが辿り着いた布教所です。その他に講社が10ヶ所あります。日本の様に個人宅ではなくて、集談所の様なもので20〜30人位が集まります。月次祭をつとめているんですが、お社が置かれていないので、教会の方に向かって行っています。さらに田舎に行くと、ここにも

講社があり「すりがね」も現地の人達が工作して作成しています。もつと奥に行くと、何も無いので「みかぐらうた」を貼付し、それを目標にしています。

### ◎社会に貢献する教育活動

教会の活動の中で、もう一つ大きな柱になっているのは学校教育です。広い土地がありましたので、学校を建てて教育をしています。小学校3、4年生と幼稚園のクラスです。(プロジェクターで見ると)

90年代の内戦から学校教育は出来ませんでした。時が経ち、教育活動が始まりました。2000年頃から、婦人会の集いという活動をしていきます。婦人が中心になって託児所を開設。6ヶ月からの子どもを対象に当時、200人位預かりました。

一つの宗教が、本来の布教活動をするのは当り前の事なのですが、それだけではなく、布教している場所に於いてどういった社会貢献活動をするのかという事が、海外ではよく求められています。コンゴの様に発展途上国では、先進国の日本から来た宗教なら、コンゴの社会に何か貢献してくれるだろうという期待が一層大きくあります。

コンゴ伝道が始まった1966年が教会の設立です。設立と同時に憩の家の医師、看護師が一つ

のチームとなってコンゴに派遣され医療活動をしました。当時のコンゴの社会にとって、これはセンセーショナルな出来事だった様です。しかし残念ながら今は活動を閉じたのでそれ以降、社会に貢献するという目に見えた活動がとれませんでした。

そういう中、天理教が社会に対して扉を閉ざしているという様な、非難ともとれる言葉が住民、また政府の高官からも聞こえる様になってきました。ヨーロッパでも同じと思いますが、一般の人達に、開かれている社会的活動が行われているかどうか、そういった事が宗教の価値を決める判断基準になっています。

そうした中、現在、展開されている教育活動は大変意義のあるものと思います。一昨年から中学校も開校しました。小学校には父兄会があり、中学校は是非天理の学校に入りたいという強い要望があります。現在、生徒、児童合わせて700人位が毎日通っています。

### ◎資金の問題

つい数年前まで世界最貧国といわれていたコンゴでは、日本の様なお供えといったスタイルが存在しません。日本の教会の様に信者さんのお供えだけで教会活動を展開し、また教会建物を維持管理していく事は難しいという現実があります。

そんな状況の中で、現地で収入の出る活動を考えていく事が必要になってきます。天理教だけに限らず、コンゴで伝道を展開している教団も同じ事です。幼稚園、クリニック、貸しテナント、駐車場、農園などを経営しています。いかにして活動資金を現地で得るか、という事を考えていくのが今後の課題です。

### ◎教えを間違いないく伝える

現在、コンゴで最も力をいれているのが教義研修会です。信仰も教義的な裏付けがないと、どうしても迷いが生じます。研修会は年に1回か2回開催し、おちばからフランス語が話せる講師が派遣されます。日本までの飛行機代は高額ですので普通のコンゴ人は到底払う事が出来ません。だからおちばがえりは容易ではありません。ほとんどの人が、おちばがえりが出来ないまま信仰を続けているという状態です。そんな中で教えをしっかりと伝達するという事は誠に大切です。

コンゴの人達は宗教が大好きで、神様の話をすると良く聞いてくれます。反面、間違った解釈とか勝手な理解も生まれやすいです。だから教義をしっかりと伝える事が大切になってきます。コンゴの人達のもの考え方の中には、植民地時代に浸透したキリスト教の考え方があります。

たとえば「神」という言葉です。宗教にとつて

一番大切なものです。フランス語では「Dieu」と言います。英語の「God」と同じです。訳してしまおうと「キリスト教の神」になってしまうんです。

実際、昨年の研修会で立教のおことばの「我は元の神」という事を説明しました。訳はフランス語で「Dieu」と書いてあるのです。初めて受講された方がびっくりされるんです。「神はどうして二人いるんだ」と。「Dieu」というのは「キリスト教の神」ですから、絶対唯一の神なのです。なのに「元の神」ときたので「えー、神は二人もいたのか」という事になったのです。

その点、日本は至る所に神様はいらっしゃいます。出雲大社の様に日本中の神様が集まるという所があります。それが受け入れられる、そういう中に我々は生きています。絶対唯一の神という社会と、我々の社会とでは神様に対する見方が随分異なってくると思います。

ある地方の講社の朝づとめに参拝しました。責任者がおつとめの後、いろいろ話されました。その方は元々はカトリックの宣教師です。話の中でこんな事を言われていました。「人類を救うために、親神様は教祖を我々人間世界へ送って下さった」と。まさしく神の使いとして、イエスキリストが送られて来たと言った言い方なんです。また「昨晚、深い眠りの中で意識もなくて死んだ人の様に眠っていた肉体に、神様はまた息を吹きか

けて動く様にして下さった。だから神様に感謝しましょう」と、こんな話をされるんです。

寝ている間もご守護下さっているという事が、まだ分かっていなかったのかも知れません。確かに一寸した違いなんです。遠い所ですので伝言ゲームの様に大きな違いになりかねないのです。教義の伝達というのは、どこまで理解出来るのか成果が目に見えてきません。しかし研修会を始めて十数年経ち、少なくとも言える事は、コンゴの人達の信仰が続く様になってきた事です。そして日頃の何気ない出来事の中に、信仰的な教えに根ざした解釈が出来る様になってきました。教えがコンゴの人達を通じて、コンゴの人達に伝達出来る様になってきました。

実際、教えに感銘、感動して入信した人も少なくありません。そういう意味で、私は教祖の教えが地理的、社会的、文化的、物理的にも、あらゆる面に於て、日本から遠く離れているコンゴの地で十分に通じる教えであって、本当に普通の教えである事に自信を得る事が出来ました。

### ◎異文化への対応

その一方で、コンゴの人達と教えを分かち合うためには、様々な面で乗り越えていかなければならない課題も沢山あると思います。たとえば、教えを現地化していく上で、何を変えて何を変えて

はいけないのかといった事です。世界の様々な所で、布教の第一線に立っている方がいつも悩んでいる課題ではないかと思えます。

簡単に答えの出るものでもありません。また全ての所に当てはまる答えがあるという訳でもありません。ケースバイケースだと思います。考える判断の基準としてそれぞれの場所で社会、文化の違いをどうとらえるのか、そういった事が大切になると考えます。

### ◎当たり前の違い

文化というのは芸能とか絵画といった特定の分野ではなく、我々が日常の生活の中で感じている、出しているものなのです。言い換えるなら、それは生活のスタイル、ものの考え方とかとらえ方、あるいは価値判断といったものです。それが同じ文化、社会に居るとなかなか気付かないものなんです。違う文化、社会に遭遇して初めて、ああ当たり前ではなかったんだと気付かされます。コンゴ伝道というのは、異なる文化との接触の連続であつたと思います。現地の当たり前に対してどうしようか、これが今も続いています。

こんな話があります。コンゴの学校に通う父兄の方が教会に来られ、会長さんを捜しておられました。庭掃除をしている青年さんに「会長さんはどこですか」と聞くと「あの人です」と答えたの

です。その方は、それはあり得ないというリアクションをされたんです。実は会長さんはほうきを持って庭の掃除をしていたんです。あんまり綺麗な格好はしていなかったと思えます。

コンゴでは、国の独立記念日とか国家の重要なイベントには必ず宗教団体の長、責任者が呼ばれます。天理教は公認宗教だから呼ばれます。カトリック、プロテスタント、イスラム教などの代表も大統領と同じ席に来賓として出席します。そういう所に行く人が庭掃除をしている。そんな事はあり得ないというのが、その方の考え方なのです。

コンゴの当たり前なんです。天理教では社会的に地位が高くても、また組織の長であつたとしても掃き掃除やゴミ拾いをするんだという事にその方は感動して実際に入信されました。天理教の当たり前に触れて、にをいがかつた例だと思えます。

### ◎教祖は異文化伝道の先駆者

私は2003年から天理大学で、新たに設けられた天理文化伝道という講義を持たせて頂いています。天理教が行っている海外での伝道を、いろいろな角度からみていく、そういうものなのです。海外伝道といえ、これまでは日本人が外国に行き布教しました。

しかし外国の人が自分達の国で、同じ国の人に

布教したら、その人にとっては国内伝道です。最近では外国の人が多く日本に来られています。そんな人達に、日本にいながら外国人布教は出来るのです。国内伝道というのか海外伝道というのか、ちよつと分かりません。

よくグローバル化といわれますが、国や地域を越えた動きが加速しているのです。海外とか国内とか分けて考えること自体が無くなっているのかも分かりません。そこで出てくるキーワードというのが異なる文化との接触なんです。文化というのは、当たり前と思っている事なんです。世間の人がお道の人と話をした時、やっぱりお道の人とは違うなあと思うのも、実は信仰に根ざした考え方が同じだから、その様に思えるんだと思います。しかし同じ場所であつたとしても、文化というものは変わってきます。

我々世代が当たり前と思っていた事が、若い人達にとつては当たり前でない。文化は次代と共に変わるので、同じ日本人同士であっても異文化伝道と、とらえる事が出来ます。

教祖の50年にわたるひながたの中で、海外伝道というものはされていませんでした。考えてみれば、教祖は海外へは行かれなかったけれども、当時の日本、大和の常識、当たり前といわれていた事に常に対峙されてきました。それまでなかった神の社という立場もそうですし、をびや許しもそ

これまでの習慣、伝統的に行っていった事を否定するものでした。「谷底も高山も同じ魂」「女松男松へだてなし」「月のは花やで」といった言葉も、当時の当たり前を覆すお言葉でした。また「病の元は心から」「心の埃」「ぢばの存在」といったものも、それまでになかった新しい当たり前の提示だと思えます。それは教えに根ざした本当の考え方だと思えます。

そうした意味で、この教祖のひながたこそが、実は異文化伝道のひながたと、とらえる事も出来ると思えますし、教祖こそ、異文化伝道の先駆者という事もいえると思えます。 《以上要約》

## 「教祖ご存命」を語られる

### 第2回若人の集い 開催

11月23日、「第2回若人のつどい」(主催…年祭活動推進委員会・田中隆之委員長が大教会で開催され、20代〜40代の男女94名が参加した。

午前の第1部は、中山仁氏(布教の家石川寮副寮長。山名大・名陽分教会所属)が、講演を行った。中山氏は、自身のメキシコでの布教活動を通して実感した「教祖御存命」について、様々なエピソード



笑いあり涙ありのお話

ドを交えながら話された。また、講演後の質疑応答の時間には、参加者から多数の質問がされた。その後、笠岡部内の教会長・よふぼくの活動紹介DVDが上映され、参加者らは熱心に見入っていた。

午後の第2部は、8つの班に分かれて「ふれあいクッキング」が行われた。唐揚げ、ハンバーグ、鍋物、スイーツなど班毎に指定されたメニューを、班で協力して和気藹々と作る姿が見られた。調理



テーブルを埋め尽くす料理の数々

後は、班毎にテーブルを囲み、参加者全員で作った豪華な料理の数々に舌鼓を打った。

閉講式では、田中隆之年祭活動推進委員会委員長が、「おたすけお願ひカード」の活用など、それぞれができるおたすけを実践していきましょうと挨拶した。

参加者は集いを通して、年祭活動の仕上げの年を迎える意気を高めると共に、同じ笠岡につながるよふぼく同士の絆を深めた。

## 「おつとめ」の大切さを学ぶ

大恵山分教会 瀬藤 大喜

中山先生がお話をはじめられてすぐに、私は「うわあ、ありがたいなあ」と感じました。

それは、私が今年の3、4、5月と修養科に行かせていただくために、2月の末から詰所にいた時の事です。その日笠岡の詰所では、教会長講習会みたいなのがあり、その時も講師として中山先生が来られていました。私は詰所のお手伝いをしていてその時、直接お話は聞けなかったんですが、私の祖母が中山先生のメキシコ布教のお話を半分泣きながら伝えてくれました。それを聴いていて私は直接聞かせてもらいたかったなあと思っていたのを思い出したからです。

親戚の方とのお酒の席で、メキシコに行こうと決心を決めた思い切り、それを認めてくれた奥様の愛情が印象的でした。

また、メキシコでおたすけがどんどんあがっている事にとっても興奮を覚えました。

そして、修養科を終えた今回、若人のつどいで念願かなって直接聞かせていただいたときは、以前よりもっと感銘を受けたのですが、それに加えて感じたのがおつとめの大切さでした。

中山先生が代替医療の国際フォーラムでおつとめで会場が一つになったとおつしやっています

た。また、山の小さな村のキリスト教の教会の前で不思議な体験をされたときもおつとめをなさっていました。

心のほこりをほうきではらうように日々おこなっているおつとめには、これほどの力があるのだと改めてそのありがたさを感じさせられました。

おそらく2月の末に直接聞かせていただいたら、おつとめの大切さには気づけてなかったと思います。今回聞いたことでこのように受けとる事ができたのではないかと思うと、改めて喜びが胸にしみました。

「おさづけに重いも軽いもないんです」という中山先生のお言葉を胸に教祖百三十年祭に向けて、1回でも多くおさづけを取り次がせていただき、1人でも多くの人と手をとり合い日々を通していただきたいと思います。

## 素直な心で通ります

島根分教会 辻井 万喜子

前半は講師の先生のお話でした。

遠く離れたメキシコでの布教のお話をお聞きして、今こうして私たちが過ごさせていただいていることにありがたさを感じ、また、親神様ほどにいても、どのような状況においても常に私たちを導いてくださっているのだと思いました。

限られた時間の中では話しきれないエピソードや、ご苦労があたりだったことと思いますが、明るく、勇んだ心を学ばせていただきました。

後半は自分たちで料理をしてバイキング方式の昼食でした。練り合いだけとはまた違った、和気あいあいとした雰囲気、同じ笠岡内の方と交流ができて楽しく過ごせました。

今回、託児ひのきしんの方に子ども二人を預かっていただきましたが、温かく見守っていただき、安心してつどいに参加させてもらいました。

教祖130年祭まで1年と少し。講話でお聞きしたように、「しなれば」という心の決めつけを捨て、自分の心に素直になって歩ませてくださいたいと思いました。自分のできるところから、一人でも多くの人に、この御教えを伝えられたらと思います。





正月を迎える客殿の庭

## 剪定ひのきしん

管理部

管理部(武内清明部長)では、11月18日から20日まで客殿の庭の剪定を中心に教会敷地内の剪定・伐採を行った。10月22日から24日までの予定は雨の為1日半しかできず、改めて日程を組み直し行

われた。近年受け持つ木の剪定も徐々に定着して、大掛かりな植木の剪定・伐採・片付けなどは大勢のひのきしんの方々の協力で行われる様になった。広い敷地での管理は隅々にまで目を配る事は困難で行き届かない場所も多々あり、今後も皆様のお力を頂戴しながらつとめさせて頂きますので、よろしくお願いいたします。

## 修養科生の声

### 修養科の思い出

稲瀬分教会 矢本良雄

所属教会の理の親と地元から高速バスと電車を乗り継いで、奈良県天理市のおちばへ帰ってきました。笠岡詰所へ到着して色んな人達と顔を合わせました。

同じ笠岡詰所で過ごす同期の修養科生は、私他に男性2人、女性10人の12人です。各自自己紹介をする時間が設けられました。この後、修養科に参加すると授業で「感話」という時間があるのですが、笠岡詰所へ集合した修養科生で早速、人

前で話をする時間が設けられたのです。

私自身もある身上があり信仰しているのですが、様々な身上・事情を持つ老若男女がおちばへ集まり、修養科生活がスタートしました。

初対面の人達と一緒にひのきしんから始まりました。修養科で習ったのですが、ひのきしんを漢字で書くと「日の寄進」と表され、これは他の宗教とは違う天理教のものだそうです。ひのきしんを通して、身体が動く事に感謝しました。

修養科生活では、団体行動で食事をしました。同期の修養科生の人みそ汁の具やおかずを一口、また一口と口に運ぶ度に「美味い!」「旨い!」と連呼していて、ごほんも食べられるだけでもありがたいのだなと感じ感謝しました。

修養科での生活は、朝起きてひのきしんをし、朝夕のおつとめをして「おたすけ・お願いカード」を書きました。「人たすけたら我が身たすかる」「人のたすかりを願いまししょう」おつとめも自分のためではなく、人のためにつとめているんだな。

修養科で八つのほこりについて学び、今までは私が自分の事ばかり考えていたから、はらだちやうらみのほこりがたまっていたのかもしれないと感じました。

修養科生としておちばで約3ヶ月間、心の修養をしました。地元へ帰っても周囲の環境は3ヶ月前と全く変わっていないかもしれない。また世間

の風当たりは冷たいかもしれませんが。修養科を出て、私自身が3ヶ月前と比べて変わったかが大事だと思います。

「人のたすかりを願う」先ず祖母におさづけをとりつぎたいと思います。

「陽気ぐらし」この先辛い事があっても、自分の心次第。「おたすけをしよう」と思います。人のために。



## 修養科を終えて

引野分教会 猪原 瑛梨

私は、去年、身上を頂いて母が私の身上が治つたら二人で心定めとして修養科に行くと決め、身

上も良くなり退院出来た為、母と二人で来させて頂きました。

修養科に来るまでは、天理教は、お婆さんからの信仰で身近にあったのですが、年齢が進み、周りの目や、祭典の日に早起きするのが大変だった自分には、めったに所属教会に行くことがなく、修養科に行くのは知らなかった事を学ばせて貰える楽しみと面倒だなと思う気持ち半分で来させて頂きました。

入ってみると吉岡先生を始め3ヶ月間の助員の三代先生、藤井先生、猪原先生、笠岡詰所の13名の修養科生、クラスのみんな、事務所の先生たち、皆優しく、毎日色々な事を知り、次々みかぐらうたや鳴物、教典や教祖伝を習って、天理教の事が分かって楽しくなりました。お手ふりを覚えた、鳴物が出来るようになりたいと、不思議に今まで消極的でものを覚えるのが苦手だった私が、積極的に覚えたり、人の役に立つ事がしたいと思えるようになりました。

これから土地所に帰ってもその思いを忘れないよう、毎日日参をさせて頂いたり、自宅でおふでさきを読んだり、身上を治して頂いた御恩を忘れる事なく、毎日感謝の気持ちを持って行動し、親神様にとつて良いよふぼくになれるように、修養科を終えてホッとひと息つくのではなく、これらがスタートだと思ひ、教会の祭典には必ず参加

させて頂いて、修養科に来て学んだ事が發揮できるようにつとめたいと思つています。そしてこれからもつと天理教の事を知りたい、人の役に立つ事がしたいと思ひ、検定講習と少年会に入らせて頂きたいと思つております。

最後になりましたが、先生たち、修養科生の皆に、色々相談のつて貰ったり、笑いあったり3ヶ月間短かったように感じましたが、とてもいい経験になりました。これからは親孝行をして、行きます。充実した3ヶ月間でした。毎日感謝の気持ちでいっぱいでした。本当に心からありがとうございます。

## 修養科を終えて

出雲分教会 若槻 良子

修養科へ行かせて頂くのが長い間の夢でした。二年前に教祖とお約束させて頂き、今回それを果たさせて頂けて、本当に良かったです。

教養の先生を始めとして、素晴らしい先生方や、優しく元気で明るい笠岡の同期生、そしてクラスメートに囲まれて本当に有難かったです。修養科で学ばせて頂いた教理、おつとめ、おたすけ、ひのきしんのすばらしさ、これから何事も喜び心で通らせて頂きたいと思ひます。本当に有り難うございました。

## 修養科を終えて

大恵山分教会 瀬藤 彩香

私が入らせて頂いた修養科第八一期は、全員で三三名、笠岡大教会からは十三名での開始となりました。おちばの秋は本当に綺麗で、いつもの通学路の景色が緑から赤、黄色へと変わるのを見ながら、皆で毎日楽しく歩いて通ることが出来ました。

修養科中、周りで様々な身上・事情を見せて頂き、辛い時もありましたが、仲間と一緒に心を一つに合せて祈るという経験を初めてさせて頂きました。そしてどんな状況でも、なつて来る中に喜びを見つけて感謝し、神様に凭れることを学んだ様に思います。

修了の日を、笠岡大教会十三名全員でおちばで迎えられ、クラス全員で笑顔で終わった事に、親神様に感謝でいっぱいです。そして詰所での生活が本当に毎日笑い声が絶えず楽しい日々となったのは、優しい親心いっぱい包んで下さっていた先生方と、愉快で優しい十三名の仲間に出会えたからだと思います。心から感謝しています。最後になりましたが、詰所の先生方、ひのきしんに来て下さっている方々にも、いつも温かく声をかけて頂き沢山助けて頂きました。本当に、ありがとうございます。

## 三ヶ月を振り返って

東福山分教会 枝廣 美可

この三ヶ月は、楽しいことよりも、辛かったりしんどく感じることも多かったように思いますが、ですが、その分たくさんの方に気付いて、得るものも多く、修養科に送り出してくれた両親には感謝しています。

修養科に来て三週間経った頃、大好きな祖父の出直し。二ヶ月目には身上も頂き、また自分の癖性分に自己嫌悪になったり、本当に色々なことがありましたが、今振り返ると、自分を見つめ直す貴重な時間を頂いて、本当に有難かったです。

私は、学生時代六年間、おちばで過ごし、そのため、本部に参拝もよく行き、神様の話も沢山聞かしてもらい、おちばでの生活も慣れていましたが、おちばに居れることの有り難さを分かっていたり、おちばに居ることに難しさを感じていなかったなあと感じます。修養科中ある方に「今、あなたは教祖のすぐそばにいますよ。」

辛い時は教祖のもとに飛んで行って、胸の内をお聞き頂ければいいのですよ」と言われ、教祖殿で今日あった事、思った事、悩んでいる事など教祖にお話しするようになりました。すると、不思議に心が軽くなり、素直に「教祖っているんだなあ、見守って下さってるんだなあ」と、神様を感じられるようになりました。

ここで学んだことは書ききれませんが、学んだことを忘れてしまわぬよう、教会にしつかりとながって、親孝行できるような努めたいと思います。この度、笠岡の修養科生は十三名で、皆本当に優しく、素敵な仲間に出会えました。教養掛の先生にも親心を沢山頂いて、本当にお世話になりました。このタイミングで、修養科に來させて頂けて良かったです。三ヶ月間、本当にありがとうございました。

## こころの詩

笠岡に繋がる教友の方が選ばれ掲載されましたので転載させて頂きます。おめでとございます。

▼天理教道友社発行『天理時報』より転載

▼12月7日付「時報歌壇」

・海松ヶ岡分教会よふぼく 藤井光子さん

大祭の空澄みきりて柏手の

みな打つ音高くひびけり

▼養徳社発行『陽気』誌十二月号、「道柳」より転載。今回の課題は「行」。

▼秀 詠

・東悠分教会前会長夫人 田林美智子さん

行く年も来る年なおもときめきを

## ▼表紙写真

(吉岡輝昭かさおか編集部員)

## 十一月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます  
親神天理王命の御前に 会長上原理一 慎んで申し上げます

親神様には一れつの子供がかわいい親心のまに／＼ 陽気ぐらしを楽しみに昼夜を分かつ御守護を下さっております 加えて陽気ぐらし実現の為に  
身上や事情に徴を見せるだけでなく自由の御守護をお現し下さって心の入れ替えを促して下さっております事は誠に有難く勿体ない極みでございます

しかしながら せつかく大難は小難に小難は無難にと導いて下さったり身上を救って頂きながら 親心に気付かず心の入れ替えが出来ずにいんねんに翻  
弄されている人が多くいます事は誠に残念でなりません 私共は 成つて来る理はたすけたいとの親心の現れと常に心の入れ替えをすると共に かしもの  
かりものの喜び感謝の心一杯に日々は朝夕に御礼申し上げつつ 一人でも多くの人に親心を伝え心の入れ替えを図るべく つとめとさづけを通してたすけ  
一条の御用の上に努め励まして頂いております

その中にも今日の吉日はたすけの元立てたるおつとめをつとめる日柄でございますので 只今からおつとめ奉仕人一同 たすけ心も一入に明るく陽気に  
勇んで坐りづとめてをどりをつとめて十一月の月次祭を執り行わせて頂きます 御前には今日の日を楽しみに寄り集いました道の子供達が五万七百六十  
五枚のおたすけお願いかードと共にたすけ心を持ち寄り 日頃の御高恩に改めて御礼申し上げますより一層のたすけを願って相共にお歌を唱和する皆の  
真実の状を御覧下さいまして 親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて立教百七十七年の本年も残すところあと一ト月余りとなりました 振り返ってみますと 教祖百三十年祭に向けて三年千日と仕切つて歩む成人の歩  
みの二年目に当たり 一年目より実働の度合いを強めてたすけ一条の成人の歩みを進めてまいりました 確かにおたすけお願いかードの枚数も増え別席ひ  
のきしん団参での別席者も増え大変喜ばせて頂いておりますが 論議にあります一手一つの活動には至つてないように思われ 九月の笠岡にいがけデー  
統一活動日や十月秋の大祭参拝を通して成人目標の再確認と徹底を図つてまいりました 歳の瀬を迎えるに当たり今一度年頭の心定めに思いを致し あと  
一ト月余り悔いの残らないよう力の限りに勤め切る所存でございます

又本日祭典に引き続き海外伝道講習会を開催させていただきます 海外に精通する先生の話を聞かせて頂いて日々の信仰生活をより充実させて頂く所  
存でございます さらに又明後日に若人の集いを開催させていただきます 次代を担う若者達が百三十年祭に向かってそれぞれの教会の手足となって貰える  
よう丹精させて頂きます

何卒親神様には 旬の理に応えたとすけ一条に邁進する皆の誠真実の心をお受け取り下さいます 万たすけの上に更なる自由の御守護をお現し下さり 親  
心に触れ一列兄弟の理に目覚めて睦み合う人が増して 陽気づくめの世の状が一日も早く実現しますようお願い申し上げます  
一同と共に慎んでお願い申し上げます

# 笠岡大教会 年間行事 予定表

部会 月	婦人会	青年会	少年会	学生会 学生担当委員会
1	28 婦人会創立記念の日			
2	2・3 委員・直轄委員長研修会			21 学生層育成者講習会
3				3~9 学修 大学の部 6~8 学修 高校卒業生コース 28 春の学生おぢばがえり
4	19 婦人会本部第97回総会 (午前 9:30)		30~1 鼓笛合宿 1 笠岡団おつとめまなび総会	おぢば管内新入生歓迎会
5	31 婦人会笠岡支部総会		21 縦の伝道講習会	
6		1~24 おやさとふしん 青年会ひのきしん隊 28 ひのきしん回参		
7				
8		15・16 あらきとうりょう入門塾	22~24 キャンプ	9~15 学修 高校の部
9	22・23 委員部長 後継者講習会	6~13 全分会布教推進週間	21 テッチャンと遊ぼう (わかぎのつどい)	
10		27 第91回天理教青年会総会		
11	7・8 こかん様に続く会			
12				
備考	◎例会日(毎月3日) ◎直轄委員長連絡会(21日) ◎ひまわり会(1日) ◎女子青年例会(随時) ◎大教会掃除ひのきしん (毎月19日)	◎有志ひのきしん隊(毎月)	◎教会おとまり会の実施  ◎テッチャンシアター (親子参拝) 2・3・6・7・8・9・11月	◎本部より直属巡回 5/1~12/31(笠岡詰所)

# 立教 1 7 8 年(平成27年/2015年)

部会 月	全体行事 その他	ひのきしん	布 教 部	海 外 部
1	4~18 直轄教会春季大祭参拝 20 年頭会議	11~20 直属ひのきしん特別隊 (東ブロック)		
2	2~15 部内巡教 28~3/1 修養科修了講習会	16~28 本部食堂(福山ブロック)	26・27 教会長講習会(笠岡詰所)	
3	1 雅楽勉強会 2~15 部内巡教			英文パンフレット配布
4		17~19 教祖ご誕生祭詰所受入	29 全教一斉ひのきしんデー	
5	4~18 直轄教会定期巡教 24 大教会長杯親睦スポーツ大会 28・29 修養科修了講習会	1~15 本部食堂(島根ブロック)		タンザニアおたすけ訪問
6	27・28 雅楽講習会			
7		16~31 本部食堂(西ブロック)		
8	26~4 こどもおぢばがえり 28・29 修養科修了講習会	25~4 こどもおぢばがえり詰所受入 前半：7/26昼~30昼 後半：7/31昼~8/4昼		7・8 英語講習会
9	<b>23 笠岡にをいがけデー 統一活動日</b>		1~30 布教推進強調月間 28~30 全教一斉にをいがけデー	
10	4~18 直轄教会秋季大祭参拝 <b>25 別席・ひのきしん団参</b>	1~15 本部食堂(高屋ブロック) 25~26 秋季大祭詰所受入		
11	<b>23 若人のつどい</b> (大教会) 27・28 雅楽講習会 28・29 修養科修了講習会			英文パンフレット配布 21 海外伝道講習会 (月次祭に合わせて)
12	20 心定め提出 22 年末大掃除	1~20 直属ひのきしん特別隊 (上府ブロック) 27 詰所餅搗		
備 考	◎部長会議 毎月29日 午前10:00 ◎役員会議 毎月29日 午後 1:00 ◎役員並びに直轄教会長会議 毎月29日 午後 2:00 ◎直轄教会長の集い 毎月20日 午後 2:00 ●雅楽練習 毎月次祭前日夕勤後 舞楽練習 随 時	註：ブロックの区分けは 東：岡山県以東の直轄教会とその部内教会 西：広島県以西の直轄教会とその部内教会 上府：上下、府中市	◎おかえり講話 4月18日、10月25日	◎月例勉強会(毎月21日) ◎『英文かさおか』発行 ◎海外よふばく月報

立教百七十七年十一月月次祭 祭典役割表

胡 三 味 琴 弓 線	小 鼓	す り が ね	太 鼓	拍 子 木	ち ゃ ん ぽ ん	笛	て を ど り	お つ と め	地 方	役割	講 話	祭 主								
										区分			扈 者							
										海外布教推進講習会			今川昌彦							
今川佐智子	上原順子	虫明好美	上原志郎	岡崎真一	中村道徳	三島忠平	森本弘実	山野弘実	門脇郁子	田中ますみ	大教会奥様	吉岡繁道	上原繁道	大教会長様	上原繁次	杉原博之	中村剛	坐り勤	大教会長様	
岡崎豊子	森本富美子	佐藤香苗	武内清明	横山逸郎	山田敏彦	岡崎輝彦	高木昭祥	内海史郎	高木孝子	谷内美知子	内海安子	田中隆之	門脇元教	中村剛	森本忠善	笹尾正治	佐藤道孝	前半	春季大祭講話	
中村初美	笹尾順子	上原真孝	佐藤明教	浅野隆夫	渡邊素志	赤木久嗣	田林立生	虫明立生	横山小智榮	門脇加津美	武内昌彦	今川誠治	中島誠治	中村邦義	上原伸浩	谷内自壽	吉岡自壽	後半	島村廣義先生	
												指 図 方	贊 者	武内清明	佐藤真孝	佐藤道孝				

<育成部>

○よふぼく勉強会 (立教178年・平成27年 計画)

月	テーマ	お話し	の担当者	(敬称略)
3月	道の台	岡崎	豊子	(弥高山分教会会長夫人)
6月	夫婦	田中	ますみ	(福山分教会前会長夫人)
7月	親のあとを子が続く	香取	雅人	(川島郷分教会会長)
8月	道と社会	瀬藤	友昭	(大恵山分教会会長)
9月	にをいがけ	三代	幸	(米府分教会会長)
12月	教祖130年祭おぢがえり	佐藤	道孝	(芳井分教会前会長)

\*毎回、お話しは午後1時15分～2時まで。



第9回 登殿参列

登殿参列

◎第9回

立教177年11月26日

門脇元教(島根)、笹尾正治(葦陽)、高木昭祥(湯田原)、岡田誠(備中)、森本忠平(笠晴)、西村彦一(瑞雲)、高島寛(海潮川)、仙田勉(出雲川津)、仙田公男(天場山)、三代温生(雲東)、三島順教(葦沼)。

# 大教会だより

## ◎立教177年委員長講習会 受講

8月28日に始まった婦人会本部主催の「委員長講習会」は先ごろ、国内の全日程を終了。11次にわたり親里で開催され、計1万5千23人が受講した(『天理時報』より)。

## 開催期間 8月28日～11月12日。

本部員講習 深谷善太郎先生、中田善亮先生、井筒梅夫先生。

## ▼笠岡支部参加割り当て 137人。

参加数 137人、内、委員長105人、代理32人(内、委員部外7人)。

受講日 9月10日20人、9月11日28人、9月12日20人、10月15日30人、11月10日28人、11月12日11人、計137人。

※第6次(9月20日)開催時、吸江委員部・西村由理子さんが委員長

感話。

## ◎第八八一期修養科

自 立教177年9月1日

## ◎三日講習会修了者

立教177年12月7日終講

## \*教 養 掛

至 立教177年11月27日

三ヶ月間 吉岡 誠一郎 (大教会准役員・興明分教会長)

一ヶ月目 三代 信行 (米美分教会長)

二ヶ月目 藤井 保人 (福東分教会長)

三ヶ月目 猪原 啓介 (両司港分教会長)

## \*修 了 者

稲瀬 矢本 良雄

大江橋 松本 光司

島根 松本 光

皆部 常井 二三代

皆部 常井 由香

皆部 常井 彩未

引野 猪原 瑛梨

東福山 枝廣 美可

大恵山 瀬藤 彩香

出雲 高島 元恵

出雲 若槻 良子

大江橋 松本 朋子

興明 相原 一尋

## ※訂正とお知らせ

本誌巻末に連載中の「稿案・天理教笠岡大教会史年表」について、本年11月21日発行の『かさおか 53巻第11号』16ページ掲載分(13・14ページ)の前の2ページ(11・12ページ)が飛んでおりましたので、本号に掲載いたします。なお、明年1月21日発行の『かさおか 54巻第1号』には、15・16ページに掲載いたします。



あと少しで立教百七十七年も終わります。新年を迎えこれを読まれる頃は、立教百七十八年、教祖百三十年祭まであと一年となつています。で、三年千日と目標をたててより、残り四百日となりました。

このところ、私を含め教会につながる人達に、いろんな節をおみせ頂いております。どうすればたすかして貰えるか、おさづけを取り次がせ

て頂きながらいろいろと思案させて頂いています。

そんな中、妻より今日、K分教会の前奥さんから凄じ事を聞いたよ、と教えてくれました。聞かされたことは「この句はたすかる句、だから必ずたすかるよ」と言われたそうです。この話を聞くと同時に、三年千日とは年祭に向けて心の準備期間ではなく、教祖が一番喜んで下さる事をさせて頂く時だと思わせて頂きました。

おたすけをさせて頂いている方に、先程のたすかる句のひとつを話させて頂いたところ、本人さんもやるべき事がみえたらしく、安心した顔を見せてくれました。

「よきたねをまけば、あきたねをもまいてきた」とのお言葉通り、あちこちで芽が生えてきていますが「あしき芽をしっかりと頂こう」と勇んで、持場、立場でつとめさせて頂こうと思います。

今は、お道では満ち潮だと思えます。今、行動を起こせば、願う心はすべて「おちば」に向かつていくのではないのでしょうか。(と)

